



本市においても少子高齢化が進み、一昨年から人口減少に転じています。少子高齢化は予算の構成にも影響しており、生産年齢人口の減少により歳入の根幹である市民税の増加を見込めない一方、福祉施策として支給する扶助費は増え続けています。

この状況に歯止めをかけ、人口減少の克服や柔軟な対応を目指して地域の活力と持続可能性を高めるためには、10年後、20年後の将来を見据えた施策が必要不可欠です。29年度は、このような視点から予算を編成しました。

## 29年度当初予算

# 子育てと産業活性化に注力

岡財政課 ☎70・5601

新規・拡充事業では、施政方針の「5つの政策」を柱に「活力と魅力に満ちた綾瀬をつくる」施策に重点を置き、保健福祉プラザの開所をはじめ、子育て用品の購入費に対する助成や5歳児発達相談の実施などの子育て支援策の充実と、あやせ工場(※)ネットワークの

歳入は市税が130億円となり、予算の43.3%を占めています。市民税は横ばいですが、固定資産税の増加により前年度比5千万円の増加となっています。歳出では、保育所の増設や、障害者介護給付費の増加などにより、扶助費が2億1千万円の増加となっています。29年10月に開所する保健福祉プラザの建設や比留川遊水地の整備事業などの大型建設事業の進捗により、道路や公園などの整備を行う普通建設事業費が、15億4千万円の減少となつていきます。

### 都市づくり

(仮称)綾瀬スマートインターチェンジ周辺パーク&バスライドの推進  
355万円

市民の交通利便性を向上させるために、インターチェンジ周辺地区において、駐車場などを整備し、東名高速道路綾瀬バス停へのアクセスの向上を図ります。既存路線バスや海老名駅発羽田空港行きバスの誘導による乗り換え拠点の整備を推進します。

### 産業の活性化

あやせ工場ネットワークの構築  
60万円

将来の「あやせ工場」を担う若手社員の育成を支援し、若手社員のネットワーク構築から技術交流や企業間ネットワークにつなげるため、「あやせ工場」合同入社式・研修会を実施します。

工業活性化と技術継承への支援  
167万円

熟練技術者の持つ技術を、市内他社の技術者に習得・継承してもらうための技術継承セミナー「工匠塾」を開催するとともに、工業活性化コーディネーターによる企業訪問により、経営革新、技術開発、企業間・産学公連携などを促進します。

地域振興施設の整備  
4,078万円

インターチェンジ開通による経済効果を高めるために、地域経済の活性化の拠点として地域振興施設を整備し、来訪者への地場農産物提供による交流人口を確保します。

## 各会計の予算規模

一般会計と5特別会計の予算総額は505億円で、前年度に比べ18億6千万円(3.6%)減少し、そのうち一般会計は大型建設事業の進捗により、300億円で、14億円(4.5%)減少しており、4年ぶりに予算規模が縮小しています。

特別会計は5会計全体で205億円、前年度に比べ2.2%減少しています。介護保険事業では、サービス利用者の増加により保険給付費が増加する一方で、下水道事業では27年度より3か年で実施している小園地区浸水対策バイパス管工事の事業進捗による事業費の減少により減少しています。

### ■各会計の予算規模

会計名	29年度	対前年度比		
		増減額	増減率	
一般会計	300億円	△14億円	△4.5%	
特別会計	国民健康保険事業	111億7,200万円	△1億7,000万円	△1.5%
	下水道事業	31億6,700万円	△5億300万円	△13.7%
	深谷中央特定土地 区画整理事業	4億4,400万円	3,900万円	9.6%
	介護保険事業	47億3,300万円	1億7,700万円	3.9%
	後期高齢者医療事業	9億8,600万円	△400万円	△0.4%
計	205億200万円	△4億6,100万円	△2.2%	
合計	505億200万円	△18億6,100万円	△3.6%	

本文と表中に記載の数値は、表示単位未満を四捨五入しています

構築や地域振興施設の整備など、地域の活力を引き出すための産業活性化などに重点を置いた事業を多く計上し、ソフト事業を中心に積極的な予算となりました。

※市全体を大きな工場に見立てて「あやせ工場」と呼んでいます